



## GENKYO 横尾忠則 原郷から幻境へ、そして現況は？

横尾忠則(1936年生まれ)は、1960年代初頭よりグラフィック・デザイナー、イラストレーターとして活動を開始し、日本の土俗的なモチーフとポップ・アート的な感覚を融合させた独自の表現で注目されました。1980年代には「画家・芸術家」へと活動領域を移し、斬新なテーマと表現による作品を次々と発表し、高い評価を得ます。

タイトルの「原郷」とは、横尾によれば、すべての人間の魂の故郷であり、現世での生を終えたのちに還って行くところでもあり、さらには宇宙でもあります。画家が繰り返し立ち戻り、様々なイメージや記憶の連関を見出している、鬱蒼とした森のような領域。この「原郷」こそが、変幻自在でいつも新鮮な驚きをもたらしてくれる、その独特なイメージ世界が生み出される源泉なのです。

大分初の大規模個展として、絵画を中心に、グラフィックの代表作を加えた豊富な出品作品によって横尾忠則の生涯の展開を辿りながら、その芸術の特性を明らかにします。

**<横尾忠則>** 1936年、兵庫県西脇市生まれ。高校卒業後、神戸でデザイナーとしての活動を始め、1960年に東京に進出、グラフィック・デザイナー、イラストレーターとして脚光を浴びる。1980年にニューヨーク近代美術館で大規模なピカソ展を見て感銘を受けたことを契機に、「画家・芸術家」へと活動領域を拡大。現在に至るまで、斬新なテーマと表現による作品を次々と発表し、国内外で高い評価を得る。

横尾忠則 撮影：三部正博



### 開催要項

【会場】大分県立美術館 1階 展示室A

【会期】2021年12月4日(土)～2022年1月23日(日) ※休展日なし

10:00～19:00 ※金曜日・土曜日は20:00まで（入場は閉館の30分前まで）

【観覧料】一般 1,200(1000)円、大学・高校生 1,000(800)円

※( )内は前売りおよび20名以上の有料団体料金 ※中学生以下は無料

※大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料(同伴者1名半額)、TAKASAGO無料、UME団体料金

※障がい者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料

※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください

【主催】公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館、朝日新聞社、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会

【特別協力】横尾忠則現代美術館、国立国際美術館 【共催】OAB大分朝日放送

【後援】大分県、大分県教育委員会、大分県民芸術文化祭実行委員会、NPO法人大分県芸術振、大分合同新聞社、

西日本新聞社、エフエム大分、J:COM大分ケーブルテレコム、大分経済新聞



《想い出と現実の一致》1998年 富山県美術館

## <第1章>

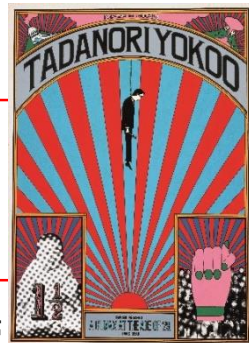
少年時代をテーマにした作品や、西脇・神戸時代のポスター作品等を展示。  
絵の好きな少年がグラフィック・デザイナーになるまでをたどります。

## <第2章>

日本の土俗的なモチーフとポップ・アートの感覚を融合し、独自の表現を開花させた、  
60年代のグラフィック・デザインや絵画をご紹介します。



《TADANORI YOKOO》1965年 国立国際美術館



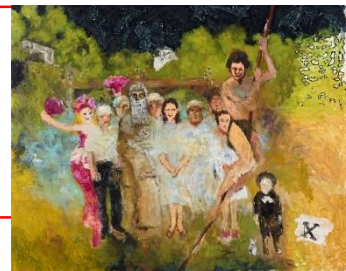
## <第3章>

画家として本格的に活動を開始した1980年から2000年までの絵画を展示。森、肉体、神話、  
滝など、多岐にわたるテーマを、鮮やかな色彩と様々な手法や素材により視覚化していった、  
迫力に満ちた作品が並びます。

《ミケランジェロと北斎の因果関係》1990年  
横尾忠則現代美術館

## <第4章>

2000年代から今にかけての「現況」に注目し、自身の過去の作品を反復・変換した  
連作や、肉体的な限界を逆手にとって絵画を多様に变化させてゆく近年の作品をご  
紹介します。

《追憶あれこれ》2019年  
作家蔵（横尾忠則現代美術館寄託）

## 関連イベント

※予定は変更となる可能性もございます。予めご了承ください。

### ワンコインリレーコンサートvol.3 蓮沼執太フィル

【日時】12月14日(火)

<昼公演> 13:15 開場/14:00 開演/ 15:00 終演予定

<夜公演> 18:15 開場/ 19:00 開演/ 20:00 終演予定

昼公演:2歳以上入場可 夜公演:小学生以上入場可

【場所】iichiko音の泉ホール【出演】蓮沼執太 ほか

【料金】500円(全席指定)

※未就学児が入場する場合もチケットが必要です

【お問合せ】iichiko総合文化センター 097-533-4004

### 監修者によるギャラリートーク

南雄介(本展監修者・前愛知県美術館館長)※申込締切済

【日時】12月4日(土) 14:00~15:00

### 学芸員によるギャラリートーク

【日時】12月11日(土)、25日(土)、1月8日(土)、22日(土)

各日14:00~15:00

【会場】大分県立美術館 1階 展示室A

【参加費】無料(要観覧券) 申込み不要当日参加可

## メディア向け内覧会のお知らせ

日時 2021年12月4日(土)

開会式 9:15-9:45

内覧会 9:45-10:15 (9:00 受付開始)

会場 大分県立美術館 1階 展示室 A

ご参加いただける方は以下をご記入の上、

Fax:097-533-4567 または Email:info@opam.jpにて

お申込みください。

お名前：

ご所属：

参加人数：

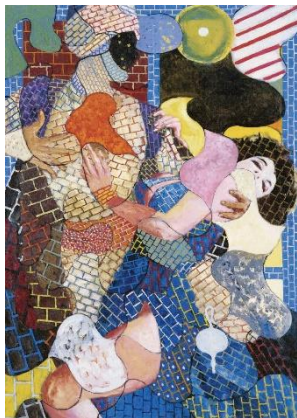
Tel：

E-mail：





1



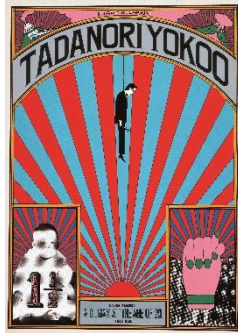
2



3



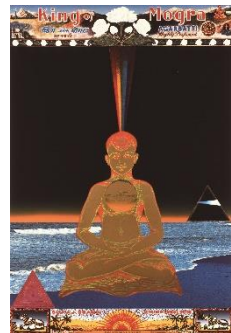
4



5



6



7



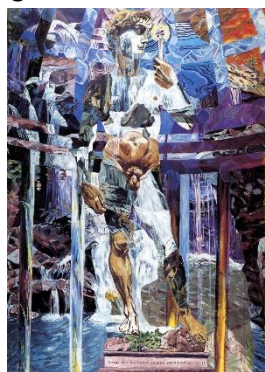
8



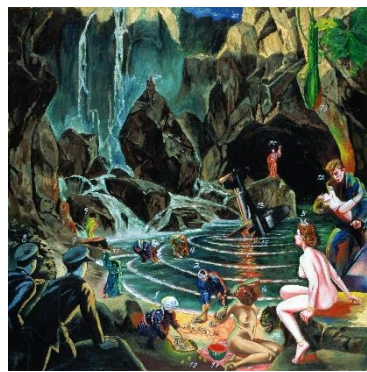
9



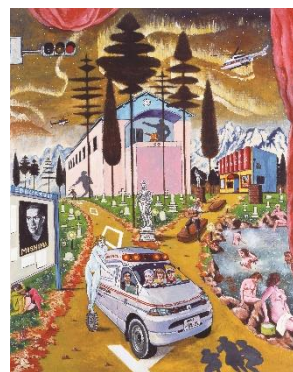
10



11



12



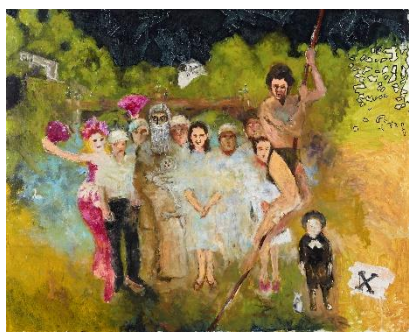
13



14



15



16

広報用画像として 16 点をご用意しております。

掲載ご希望の方は、お手数ですが本申込書に必要事項をご記入の上 FAX またはメールにてご連絡ください。  
 なお画像使用に際し、キャプションには作品名、制作年、所蔵先、コピーライト等を必ずご表記ください。作  
 品のトリミング、編集、文字載せはお控えください。本展をご紹介いただく場合には、恐縮ですが基本情報確  
 認のため、校正原稿を以下問い合わせ先宛に FAX またはメールでお送りください。また掲載後には、掲載誌  
 (紙)、HP リンク、DVD、CD-ROM 等を下記事務局宛てにお送りくださいますようお願いいたします。

媒体名：	発売・放送予定日：
種別： テレビ ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー ウェブ媒体 その他( )	
貴社名：	ご担当者名：
E-MAIL：	
ご住所：	
T E L：	F A X：

ご希望の図版番号に印をお付けください。

- ☐ 1 横尾忠則 撮影：三部正博
- ☐ 2 《愛のアラベスク》2012 年 作家蔵
- ☐ 3 《戦後》1985 年（2017 年ハラミュージアムアークでの展示風景） Photo by Shinya Kigure  
 作品所蔵および写真提供:公益財団法人アルカンシエール美術財団／原美術館コレクション
- ☐ 4 《思い出と現実の一致》1998 年 富山県美術館
- ☐ 5 《TADANORI YOKOO》1965 年 国立国際美術館
- ☐ 6 《花嫁》1966 年 東京都現代美術館
- ☐ 7 《聖シャンバラ 火其地》1974 年 東京都現代美術館
- ☐ 8 《解かれた第七の封印——画家の誕生》1991 年 セゾン現代美術館
- ☐ 9 《浪漫主義者の接吻》1986 年 愛知県美術館
- ☐ 10 《安らかに眠れ》1987 年 作家蔵（横尾忠則現代美術館寄託）
- ☐ 11 《ミケランジェロと北斎の因果関係》1990 年 横尾忠則現代美術館
- ☐ 12 《実験報告》1996 年 東京都現代美術館
- ☐ 13 《思い出劇場》2007 年 個人蔵（横尾忠則現代美術館寄託）
- ☐ 14 《ジュール・ヴェルヌの海》2006 年 世田谷美術館
- ☐ 15 《トイレットペーパーと女》2017 年 作家蔵（横尾忠則現代美術館寄託）
- ☐ 16 《追憶あれこれ》2019 年 作家蔵（横尾忠則現代美術館寄託）

問い合わせ先 / 校正原稿等の送付先	
大分県立美術館	〒870-0036 大分市寿町 2 番 1 号
広報掲載に関すること：広報担当 渡邊、植木、土屋	TEL：097-533-4500 FAX：097-533-4567
展覧会内容に関すること：展覧会担当 木藤、梶原	E-MAIL: info@opam.jp